



SSKS 療育ねっとわーく川崎

2011年5月20日発行
No.140 (2800部)
NPO法人
療育ねっとわーく川崎
発行者 江川 文誠
編集者 谷 みどり

みんなの伝言板 5月のカレンダー



ご感想は e-mail : kouhou @ rond. jp までどうぞ
☆編集メンバー 谷、山崎健、杉田、遠藤



はいきんぐくらぶずんずん

日曜日に開催予定
☆多摩川を歩く会です。障害のある方もない方も、みんな楽しく歩いています。サポーター募集中!

代表：桑原由起子
副代表 渡辺百合子・三浦ルイ子
お問合せは Rond・福田まで



マイライフ・カワサキ

☆第2火曜日予定
れいんぼう川崎で行います
お問合せは Rond・和田まで



豊かな地域療育を考える連絡会

第3木曜日の予定です
問い合わせ先 サポートセンター Rond

尊厳回復へのたたかい 堂々と生きたい —ハンセン病を生きて—

多摩全生園元自治会長・NPO法人IDEAジャパン理事長
講師 森元美代治 氏
「ゼロになろう。いっぺん死んだからもう何も怖くないぞ。」
日時 2011年5月27日(金)
14:30~16:00
場所 宮前市民館1F大会議室
資料代 300円 連絡先 TEL&FAX044-853-7337 (ここわ)
主催 宮前平駅前スペース ここわ です。

シンポジウム「みんな笑顔で暮らしたい」 ～重症心身障がい児が地域で安心して暮らすために必要なこと～

障がい児の親になって初めて気付いた。障がい児と家族にとって、随分住みにくい世の中なんだということ。障がいがあっても、笑って暮らしたい!地域で安心して暮らしたい!!それを目指して、まずはみんなで声を発信しませんか?
【日程】2011年6月26日(日) 13:00~16:30
【場所】社会福祉法人慈恵療育会 相模原療育園 多目的ホール(相模原市南区若松1-21-9)
【定員】50名 【会費】500円
【申し込み先】FAX046-278-5181(新田)
メール happy-clover2007@ymail.plala. メール又は FAX
【対象者】障がい児の家族とその関係者(医療・療育・教育・福祉・行政・その他)

会員・賛助会員募集

(連絡先) 〒214-0014 川崎市多摩区登戸2981 サポートセンター Rond
TEL 044-930-0160 Fax 044-930-0128 e-mail: info@rond.jp http://www.rond.jp/
(会費振込先) 郵便振込 00280-2-26842 特定非営利活動法人療育ねっとわーく川崎
■会費・賛助会費の別をお書きください。振込用紙が必要な方はお知らせ下さい。年会費 2000円 賛助会費 一口 1000円

こんなとき どうするの

Q 親戚が急に亡くなり、葬儀に行くことになりました。多動で知的障害のある子どもを連れていくことが難しいです。かといって入所施設でのショートステイは子どもへの負担も大きいため避けられます。夕方から夜間になるので夕食を食べさせてもらえるところがあるのですが、みても見えないところがありますか。

A 親戚が急に亡くなり、葬儀に行くことになりました。多動で知的障害のある子どもを連れていくことが難しいです。かといって入所施設でのショートステイは子どもへの負担も大きいため避けられます。夕方から夜間になるので夕食を食べさせてもらえるところがあるのですが、みても見えないところがありますか。

〈答え〉障害のある方のご家族にとつて、葬儀など緊急に一次的に見てもらいたいというご希望はとても多いのではないのでしょうか。学校や日中活動等が終わった後の数時間、お子さんを見ていてもらえれば、その間に用が足せる事つて多いですよ。

日中短期入所が変わる

このような場合に利用できる制度に、「地域生活支援事業の日中一時支援(日中短期入所)」というのがあります。

日中短期入所は、「障害児者が、介護を行う者の疾病その他の理由により居宅において介護を受けることが一時的に困難となった場合において、一時的に事業所において介護等を行う」ものです。

ご質問の方が希望されているのは、こちらのサービスだと思えます。昨年度まで、この事業は、宿泊を伴う短期入所をしている事業所にだけ

認められていて、昨年度まで市内で実施しているのは、しいのき学園・ライプリー・柿生学園だけでした。今年度からは、短期入所の事業を実施していなくても事業指定を受けることが可能になりました。また、今年度からは、日中活動サービスと同日に利用することができるようになります。通所の後の夕方から夜にかけての利用も可能になりました。年齢制限も、特別な要件もありません。幼児さんも利用が可能です。

さらに、今年度からは限定されていますが、入浴加算もつくようになります。場合によっては、日中短期入所の事業所で、夕食を食べるお風呂もすすめておくことができるようになります。これなら、日中短期入所を利用して、家に帰った後寝るだけなので、葬儀などでお疲

障害児・者一時預かりとは

川崎市の日中一時支援には、(障害児・者一時預かり)というのがあります。こちらは、川崎市の要項に、「障害者等の日中活動の場を確保するとともに、…集団生活に適応することができるよう」とあるように、小学生の放課後支援等集団の場で定期的に利用する人などを対象にしたサービスです。10か所の事業所が実施をしています。日中一時預かりの後に、日中短期入所を利用することも可能になっています。

日中短期入所は、いつもは家族で介護していても、何かあったら助けたいと思われている障害のある方の家族には、必要な制度だと思います。実施する事業所がもっと増えるといいですね。(谷)



今月号の目次

こんなときどうするの.....	1
新しい「川崎市中部地域療育センター」を見学してきました.....	2,7
療育事務局だより.....	3
東北大震災ボランティアセンター.....	4,5
明日香のたまご.....	6
みんなの伝言板.....	8



年末年始12月28日(水)～1月4日(水)
(4)クラス編成等
 子どもの年齢に応じた適切な通園回数を直し、あわせて、親子での通園回数も年齢に応じた必要性を考慮して変更します。
 4・5歳児は、就学に向けた生活リズムをつくることを主目的に週5日とします。一方で親子関係の重要性も考慮しながら、週1日は親子通園を実施。3歳児は特に親子関係が微妙にな

る時期になりますので、週2回の親子と週1回の単独通園とします。
 また、幼稚園や保育園等に通いながら週に1～2日通園施設を利用できる「併行通園」を制度化し、地域で暮らしながらも必要な療育が受けられる仕組みを導入します。
 ※これまで外来グループで対応してきた発達障害児への支援について、4歳児については、通園のクラスを設定し、週1回(水曜日)の定期的な支援を行います。

※毎週金曜日は10時から11時半で子育てサロンを開催します。(開催場所が変わることがあります)
 ※第2第4土曜日は子どもの遊び

新しい「川崎市中部地域療育センター」を見学してきました



4月6日に重心守る会、ロンド関係者、南部地域療育センターで長年活躍するボランティア団体「Cozy」コージの有志で開園を明日に控え、あわただしく準備をしている中、部療育センターにお邪魔しました。

当日、施設長の富田さんが施設を案内してくれました。
 保育室は10室あり、全て南向きで明るい日差しが差し込むだけでなく、広いテラスもあり、目の前には桜並木の絶景が広がる美しい環境でした。ここ一週間で満開になりそうです。

忙しく準備するスタッフの方も、迷惑そうな態度もなく明るく迎えてくれたことは、利用する子どもたちにとっても、期待できそうな感じを受けました。
 保育室以外にも室内プールやスノーブレン、リハビリ室、診療室などひと通り充実した機能が期待できそうです。
 施設内見学の後、富田さんから事業内容の説明をお話頂きました。
 「同愛会」のポリシーとしては、障害のある人とその一

生を寄り添っていく、ということを生かす必要な支援を作り上げていく。とおっしゃっていました。
 川崎では療育センターが初めて展開する事業ですが、今後も必要な支援を形として作り上げていくと語ってくれました。(山崎)

◎ご利用に際して◎
 地区別にケースワーカーが配置されているので住所を言って、気軽に電話相談をしてみてください。
 TEL044-754-4559

【施設】
(1)概要
 ○名称 川崎市中部地域療育センター ※診療所名称：川崎市中部地域療育センター診療所
 ○所在地 中原区井田3・16・1
 ○設置者 川崎市
 ○運営者 指定管理者 社会福祉法人同愛会

○指定期間 平成23年4月1日～平成25年3月31日(二期)
 ○建物 鉄筋コンクリート造3階建て 延床面積 2957㎡(通園棟) 1400㎡(廃棄物保管場所)
(2)運営理念(同愛会)
 人生(存在)の支援・援助
 ○障害のある子どもの幼少期から成人期以降の「じりつ」・地域生活の実現・QOLの向上に向けた支援・援助
 ○障害のある子どもの将来を視野に入れた・専門的・系統的・一貫性のある支援・援助
 ○ファミリーサポート(家族への多様な支援)による健全な育児、養育ができる支援・援助
(3)利用時間および休所日
 利用時間：午前8時30分から午後5時まで
 休所日：①日曜日・祝祭日、②第1・3・5土曜日、③12月29日から翌年の1月3日まで
 通園施設の実質的な利用時間及び利用日
 利用時間：10時～14時
 休園日：土日祝日、夏休み4日間(23年度は8月15日(月)～18(木))

遊びにきてね！ 子育てサロン

おひさま

親子で参加する遊びの場です。

広いお部屋で大人も子どもも楽しく遊びましょう！

日時：毎週金曜日 10時～11時半
 4月15日・22日・5月6日・13日・20日・27日
 場所：中部地域療育センター 2階ホール
 ※6月からは高津保健福祉センター・中原保健福祉センターでも開催する予定です。
 ※センターで開催される場合、公共機関をご利用の方は、「新城駅～センター」のピストンバスもご利用できます。
 ※通園・外来グループなど療育センターのサービスを利用していない未就学児の方とそのご家族を対象としています。
 ※事前の申し込み等は不要です。

お問い合わせ：社会福祉法人 同愛会 川崎市中部地域療育センター
 TEL 044-754-4559
 担当ケースワーカー
 (地村・三浦・渡邊・杉田・鈴木・大辻)

は～あとひろば

おもちゃ図書館だよ～♪

ひろ～いお部屋とお～おきな遊具でおも～い遊びましょ♪

毎月第**2・4**土曜日
 10時～12時

誰でもOK!
 出入り自由♪
 大人と来てね♪

問い合わせ先：
 川崎市中部地域療育センター
 044-754-4559

明日香のたまてばこ



初日の夜、泊まってくれたヘルパーさんは、好い感じの若い学生さんでした。どんな人だろうか？ととても不安だった私は、ああ良かったと安心しました。安心したとは言っても緊張が取れるわけもなく、そのままトイレに行ってお休みなさい！！でも、寝られるわけがありません。自分でもある程度分かっているのに、どうしよう？？とはあまり感じていませんでした。徹夜覚悟！そんな感じでした。ただ起きているだけだと良いのですが、問題はトイレに行きたくなる事なんですよね。この日も当然、夜中にトイレへ行きたくなってしまう、ヘルパーさんを起こして行きました。本当にごめんない・・・結局、寝たのは二時間程度・・・やっぱり、ほとんど眠れませんでした。

翌日、泊まりのサポートは6時30分まで。初めての朝だった為、手順が良く分からずトイレに行つて、上半身だけ着替えて終了！！電動に座り、ひざ掛けをかけ7時30分のヘルパーさんを待っていました。うーん、どこまでやつてもらえば良いのだろうか・・・？次のヘルパーさんが

入り、下半身の着替えをし朝ごはん。朝ごはんは、昨日家から持って来た物を食べた。パンに牛乳、それとサラダ。あまり味わう余裕がなかったけれど、美味しかったです。朝食終了後、外出の準備。初めてくえびこへ、シャロームの仲間と歩いて行く予定。でも一緒に行く仲間のサポートは9時30分まで。私は9時まで。30分の違いが判明！！ええー？！こんなの知らないよおー。しょうがなく外出の準備をし、スニーカーも履き友達を待つしかない。あーあ、時間を一緒にしとけば良かったよ・・・。

友達と一緒に、くえびこへ向けて出発！くえびこまでは思った以上に遠かったです。道はほぼ歩道があり、全然問題なし。ただ、こんな長距離をヘルパーさんなしで歩いたのは初めてだったので、とても緊張しました。くえびこに無事到着！みんなで何かをやるのかと思いきや、個々にやりたい事をやっていらいらしい。知らなかった私は、何も持つて来なかったよ。しょうがなく、みんなのやつている事を見学したり、職員さんと話したりしていました。トイレ介助も全然平気でしたよ。とても良い経験ができました。

鈴木明日香

編集後記

東北大震災から二ヶ月が経ちましたが、仮設住宅の建設・義援金の分配・福島第一原発・放射能問題とまだまだ時間がかかると思いますし、被災した方々への支援も、まだまだ続けていかないと思うので、16年前の阪神・淡路大震災を体験した自分でもできる範囲で支援に協力していきたいと思えます。

PS・・・地震の影響で開催延期になっていた川崎市在宅福祉検討委員会が4月25日にあり、出席しましたので、くわしい内容は、また紙面でお知らせします。

(和田正義)

東日本大震災（東北地方太平洋沖地震）災害支援マッチングサイト「ボランティアプラットフォーム」は、被災者とボランティア支援者を結びつけるサイトです。皆さんからいただいた支援物資をできる限り被災者に届くようにと、このサイトに登録し、マッチングした方に支援物資を送るようになっています。熊谷市・気仙沼市・相馬市・仙台市・岩手県気仙郡・石巻市・仙台市・柴田郡・郡山市・福島市・八戸市など16件の方に、ジョギングシューズや衣類、袋物、下着、水・食料品・絵本・おもちゃなどを宅急便でお送りしました。

療ね事務局便り

4月27日（水）に開催
出席者 職員3名・保護者8名

◆第11回総会について
日時 6月30日（木）10時30分から
場所 市民プラザ209（211事務局での役割分担を話し合った。

◆在宅福祉部会の報告他
(和田さんより)
・在宅福祉手当の対象が現在16万人ぐらいに支給されているが、1600人ぐらいに減る。支給対象は重複障害の方のみになり、中軽度の人への支給はなくなる。
・在宅福祉部会のまとめは6月に出来る。
・川崎市議会が解散し、新たなメンバーになる。今まで市議会に提出された要望書は無効となる。改めて、

ほっとサロンで要望書について話し合うことにする。

◆東北大震災ボランティアセンターについて

療育ねっとわーく川崎として、大震災ボランティアセンターを立ち上げた。緊急性があったため、事務局会議で話し合う時間がなかったが、事務局としても、持続的な支援をしていくことを了承。ベア基金を募り、支援物資の購入や現地への移送費などに使わせていただいている。

川上さんから「岩手県山田町への支援物資の搬送と多摩区役所で開かれた写真展の報告」

・第1回目は、バナナやジュースなどの食料品、灯油、ストーブ、下着など思いつくものを車に詰めて、出発。陸中海岸青少年の家1回目は体育館に300名が、どっといた。物資もない状況。3回目になったときには、自宅へ帰れた人も出ていて、130名が残っていた。食料品などの物資が届くようになっていた。生活が始まるとニーズに変化が出てきている。被災者のニーズに合わせた持続的に支援が必要である。

・4月13日（18日）に、多摩区役所のアトリウムで写真展を開催。被災者が熱心に見に来てくださったことに驚く。たくさん話をしたい。

・次回写真展は5月13日（16日）に、金沢文庫で開催。

(ボランティアセンター担当谷より)
・支援金や物資の提供を呼びかけたところ、たくさんの方が協力してくださった。NPOがあったから、みんなが支援ができた。ひとりひとりの力を集めることで、持続的な支援ができる。励まされることが多かった。

・たくさんさんの支援物資が集まったので、ボランティアセンタープラットホームのネット上に情報を流し、他の被災者にも物資を送るようになっている。

・ホームページで、随時活動を報告しているの、ご覧ください。

◆日中生活支援事業検討委員会
(松澤さんより)

・「ほっとぴあ」の活動報告がありました。

◆僕らの夏休みについて
(三浦さんより)

・4月14日の定例会で、今年中止することに参加者全員一致で決まった。理由は、初めて親たちの手で開催するのに、余震・計画停電（青少年の家）は実施される地域にはいつている）があった場合の混乱等考えるとリスクが多すぎる。

来年にむけて、今年早めの時期か

ら計画にはいる。

お詫び・・・2月の事務局だよりで「ほっとぴあ」を日中生活支援事業の場所の名称として紹介してしまいました。

「ほっとぴあ」は場所を創りあげようとして活動しているグループの名称です。場所の名称はまだ未定です。

◆ケアホーム「るまさや」内覧会
6月2日（木）

多摩区三田に、川崎で2番目の身体障害者ケアホーム「るまさや」が開所します。熊野さんたちお母さんが集まって、作り上げたホームです。場所は、多摩区1・25・14 三田第2公園のすぐ近くです。連絡は熊野さん TEL09096817035

◆陸中海岸青少年の家の被災者に届けたみなさんからいただいた物資や支援金で購入した物資は以下のおとりです。食料品（乾麺・缶詰）下着・靴下・ジャージ・春物衣類・安全靴・長靴・お菓子・お手紙（子どもたちからもたくさんいただきました）また、いただいた支援金は、4回現地へ届ける時のガソリン代や、写真展の費用にも使わせていただきます。詳しいご報告は、総会報告でさせていただきます。

東北大震災 ボランティアアセンター

たくさんの方から、物資と支援金と、温かいご支援をいただきました。感謝申し上げます。今後も持続的に支援をしていくことをお約束します。

今までの活動をご報告します。

3月26日 第1陣（山崎徹・川上七が岩手県山田町陸中海岸青少年の家に避難された方々に、支援物資を届

ける。

3月28日 第1陣の報告会開催し、サポートセンターロンドとして、みんなで持続的に支援をしていくこと、広大な地域、膨大な被災者がいる中で、縁のあった岩手県山田町青少年の家に避難されている300人に向けて支援をしていくことを確認する。



陸中海岸青少年の家に物資を届ける



写真展でつくった「メッセージの樹」

4月4日 月曜日

・第2陣が持つていく支援物資の仕分けをするために、30名もの人が集まり、ロンドのひかるホールに所狭しと集められた物資を箱詰めすること

ができた。
・支援金も、「ガソリン代に」「足りない物資の購入に」と、たくさんの方が届けてくださった。

4月7日木曜日

第2陣（山崎徹・兼康・谷）が山田町に支援物資を届ける。

4月8日金曜日（谷記）

東北道を北上江釣子インターで降りて、遠野を通って、石巻に。坂道を降りると、直前までのどかな田園風景が一変。崩れた家、ひしゃげた車、一体元は何だったか、想像すらできないものがぐちゃぐちゃの残骸となって、延々と続く。

・青少年の家到着。支援物資の搬入で、指導員さんや被災者の取りまとめ役の方と話を。現在の被災者は200名。自宅に戻られた方もいるようだ。今後、仮設住宅に移ったり生活に変化が出てくるが、そうなったほうが、必要な物資は増える。今後も引き続き支援をしてほしいと、依頼される。・青少年の家には、はまなす学園の園生が70名ほど避難している。学園は壊滅したが、全員

無事だった。

帰り道、お茶と水を届けるために、東北道を金成インターで降りて、南三陸町に向かう。峠を越せば、また静かな田園風景。・今のは何だったのか。

宮城に入ったら、広い水田地帯が続く。だが、やはり峠を越して、坂道を下り始めたら、いきなり、山田町と同じ情景が。まるで戦場のようだ。そこに家があったとわかるのが、土台だけ。建物はどこにいったしまったのか。思わぬところに屋根だけが残っていたり、病院の玄関の庇に舟がひっくりかえって乗っていたり、信じられない光景が。

山崎さんも「山田町は、片付けが少し進んでいて、ホッとしたいけど、ここは何も手がつけられていないようだ……」と驚かれた。

4月13日火曜日

・多摩区役所で「津波に襲われた町 岩手県大槌町 山田町」の写真展が始まった。

1日目で、用意していたチラシ500枚がなくなりました。こんなに区役所に人が来られるとは思っても

4月25日曜日

・長靴と安全靴合わせて135足の依頼が、山田町の被災者から来た。安全靴は、電線の復旧工事に必要なものだろう。26日の夜、川上さんが盛岡の実家に行くというので、急遽手分けして、数をそろえることにした。ぐらす、かわさきの江田さんに相談したら、登戸商店街の履物屋さんを紹介してくださいました。履物屋さんから在庫の長靴をすべて半額で支援物資にと、購入することができました。

5月7日土曜日

・長靴などの物資を山田町に届けた川上さんが帰ってきた。今回は、障害者の相談支援をしている方とお話できたそう。通所の施設で、職員も被災しているの、支援はほしいが、県内からの支援者を受け入れる場所もないそう。だ。一時的に、しかもはじめての人を支援者として受け入れることは、逆の立場で考えてみれば、難しいのはよくわかる。(つづく)



みなかった。東京新聞・神奈川新聞・朝日新聞の取材も来られた。ツイッターで写真展を知り、川越から来られたという若いご夫婦は、「これ、うちの親せきの家です。3階だけ流され、そこにいた家族が漂流の後ここで助かったんです」。熱心に写真を見る若いカップルに、声をかけると、「俺、大槌町の出身なんです。この建物、社協で父が働いていて、亡くなったんです。1ヶ月後に遺体が見つかって、火葬にいったきたばかりです。ばあちゃんはまだ

見つかってない。」よくいらしてくださったと、感謝の言葉しかでない。

4月21日木曜日

第3陣（有友・川上・福田）が支援物資を持って山田町に出発した。出発直前のこと、ロンドの事務所の隣に住んでいる方から、これも持つて行つてと、紙袋を渡された。衣類などが入っていた。一度も支援をしていることなど、お話ししていたが、ワイワイやっているのを聞いていてくださったんだ。

・写真展を見たという人からも、ロンドに支援物資が届くようになって。赤ちゃんを抱っこした若いお母さんが、少しですがと、缶詰や衣類を届けてくださる。

ジョギングシューズのコレクターさんが、100足の未使用の靴を提供してくださるなど、たくさんの方がロンドに届く。山田町ではさしあたっては必要とされないものも集まった。そこで、ボランティアセンタープラットホームに支援物資の登録をしたところ、直ぐに問い合わせがあった。「福島原発強制退去地域で、避難しているが何もない。」「避

支援物資を送った 石巻の方からのメール

こどもたちが喜ぶものばかり本当に助かりました！ありがとうございます！

支援に来てくれてるボランティアなど石巻には沢山来てくれてますが、なかなか要望を聞き入れてもらえないし、欲しい物が手に入りません。

今回、このような形で要望を聞いてもらい支援して頂き感謝します。

なかなか難しいとは思いますが、このような体制がもっと増えるようお願いです。どれだけの人が助かるかわかりませんが、復興までもう少し暖かい目で見守って下さい。よろしくお願ひします。